

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 長井学園 地域生活サポートセンターらいぶ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校や他事業所との連携	学校の一斉公開日への参加や担当者会議等に積極的に参加し、学校との情報共有に努めています。必要に応じて電話等でも連携を図りながら支援にあたっています。	今後も学校や関係機関との連携を大切にし、利用者の状況を共有しながら、関わり方や支援の方向性を統一した一貫性ある支援をしていきます。
2	学生スタッフの活用、実習生の受入れ。	今年度は6名保育士資格の現場実習や、大学生アルバイトの受け入れました。次世代育成の視点を持ち、発達支援の継続を意識しています。	学生スタッフや実習生の受入れを継続し、福祉の魅力を伝えることで人材確保に努めていきます。また、利用者が多くの世代と関わる機会を持つことで、社会性や経験の広がりにつながるよう支援していきます。
3	地域事業所で企画し、地域食堂を開催	地域の方々へ事業所のことをより知ってもらうよう、地域食堂を開催しました。	定期的な地域食堂の開催や、放課後児童クラブとの連携、近隣の公園への外出などを通して、地域の児童との交流の機会を作ります。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「保護者への説明」 保護者同志の連携する機会がなかった。	親子BBQや運動会など保護者参加型行事を開催し、保護者との交流はできたものの、保護者同志の悩みを共有する機会がなかったように感じています。	保護者交流会を実施し、保護者同志の交流他、利用者の活動報告ができるようにしていきます。
2	「適切な支援の提供」 活動プログラムの固定化しないような工夫について説明がなされていない。	下校時間の違い等により小集団活動の機会が減り、個々で好きな遊びをして過ごす時間が多くなっています。自立課題を通して日々の成長を確認しているものの、活動が固定化している面も見られます。また、安定を優先するあまり、刺激が少ない過ごし方に偏ってしまっていた部分もあったと感じています。	今後は利用者の状況に配慮しながらも、活動内容の工夫や小集団での関わりを増やし、経験の幅を広げられるよう取り組んでいきます。
3	「非常時等の対応」 各種マニュアルの周知や、避難場所などの周知がされていない。	契約時に説明はしていますが、いつでも確認できるようにしていませんでした。	感染症対応や閉所の判断基準等について、ホームページに掲載等、保護者がいつでも確認できるよう検討します。